

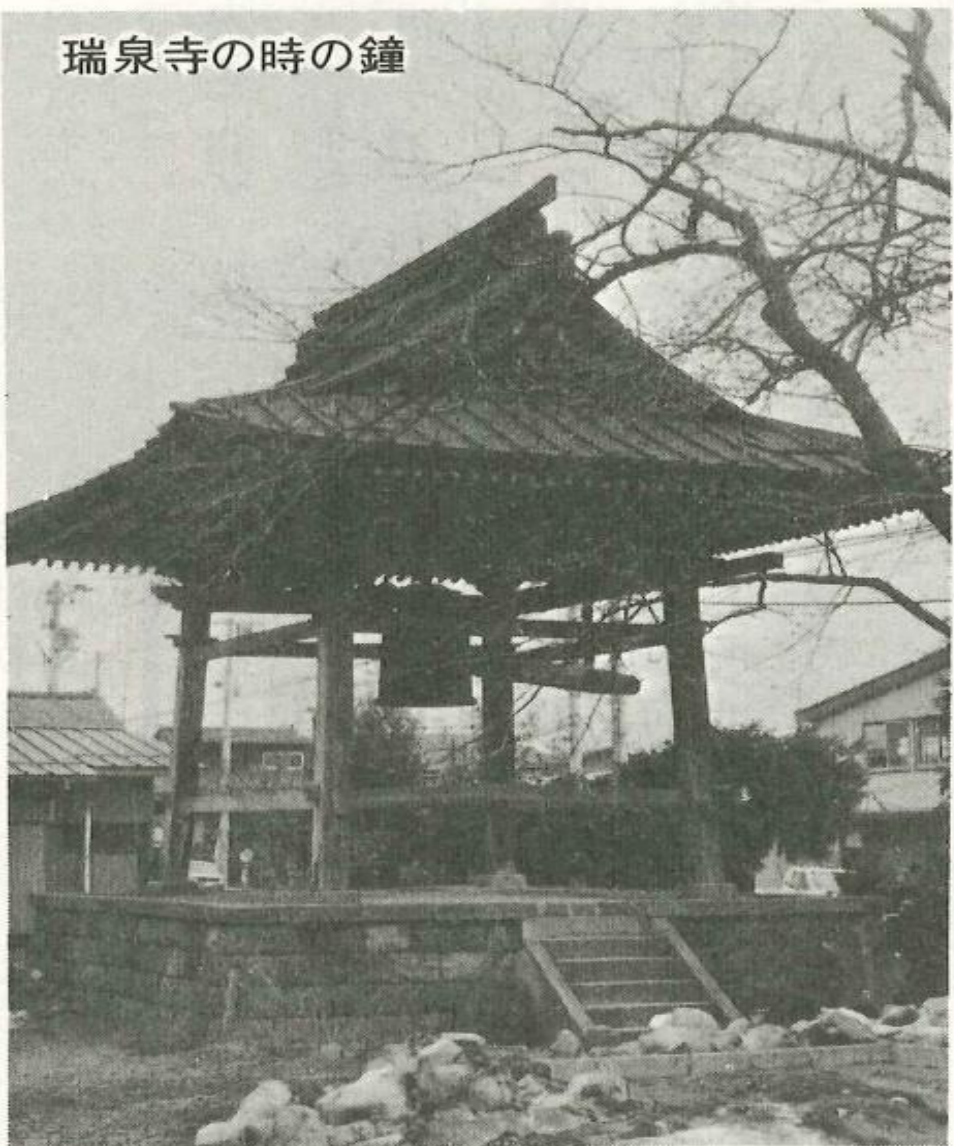
瑞泉寺

③

瑞泉寺の鐘は、高田の時の鐘として親しまれていました。この鐘は寛文九年（一六六九）五月に高田城主松平光長の命によって鍋屋町（東本町五）の鋳物師土肥佐兵衛尉藤原光次が鋳ました。鐘は茶町（本町二）吉田七兵衛屋敷の鐘楼から美しい音を海上にまでひびかせていました。鐘つき堂は、吉田屋敷の東端、馬出（大町二）の角から四軒目の宇尾野さんのおうち（住居番号1の5）でした。

つ時（午前四時）などは旅に出立する時刻だから、鐘を打つのに遅速のないようにせよと、町奉行からしばしば注意がありました。地震や火事で鐘の落ちたときは、高田別院や瑞泉寺のたいこを借りま

犬・寺・道心・時の鐘
犬公方五代將軍綱吉時代の歌だそうです。高田は寺が多いので有名。道心は仏法信者。たぶん犬公方を風刺した歌でしょう。
十九世善珍は、本堂再建、経蔵創建、梵鐘改鋳、小丸山の起立、長岡の船道復興等の業績をあげ、中興の名僧でした。



瑞泉寺の時の鐘

鐘の高さは、竜頭まで百二十一センチ、直径九十二センチ。尺時計で時刻をはかり、昼夜十二回、時ごとに鳴らしました。一時は二時間です。八つ時（午前二時）、七

した。

しかし明治九年三月二十七日の

越し、永々御逗留色々御才覚下さ

大火で鐘楼が焼け落ちて以来、二百七十年間にわたる時報の役を終えて、この名鐘は瑞泉寺に譲られました。太平洋戦争中の金属供出を免かれ、昭和五十一年三月に上越市の文化財に指定されました。むかしのやり歌にも時の鐘が出てきます。

れ候故長岡船道相立ち、御厚恩の段、船玉大明神御同前にありがたく存じ奉り候。依って船道ある限り塩鮭三尺ずつ便宜次第高田迄御音信つかまつるべく候（船道の手紙）ということになりました。
善珍は、毎年長岡の船道から届けられた塩鮭三尺のうち一尺を本山に贈りました。



(104) 池田嘉一

へ越後高田に過ぎたるものは

(つづく)